

令和4(2022)年度 第2回 新規就農者育成総合対策補助金【就農準備資金】募集要領

令和4(2022)年11月10日
(公財)栃木県農業振興公社

第1 趣旨

持続可能な力強い農業を実現するためには、新規就農者を増やし、世代間バランスのとれた農業就業構造を実現していく必要があります。

そこで、次世代を担う農業者となることを志向し、就農前に研修を受けようとする者を対象として、研修期間中における生活の安定と研修の充実を図るための資金（新規就農者育成総合対策補助金【就農準備資金】）を交付します。

第2 事業の内容

県が認める研修機関（栃木県農業大学校、市町等研修機関等）において、就農に向けた研修を受ける就農希望者に対し、1人あたり年間最大150万円を、3か月又は半年ごとに最長で2年間交付します。但し、交付対象期間が3か月未満の場合は、月割にして算出した額を交付します。（1か月未満は切り捨て）

第3 申請者の要件

当該事業の申請者は、次のすべての要件を満たす必要があります。

- 1 就農予定時の年齢が、原則として50歳未満であり、次世代を担う農業者となることについての強い意欲を有していること。
- 2 研修計画（別紙様式第1号）に記載された内容が次に掲げる基準に適合していること。
 - (1) 「就農に向けて必要な技術等を習得できる。」と栃木県が認めた研修機関等で研修を受けること。
 - (2) 研修期間が概ね1年以上、かつ概ね年間1,200時間以上であること。また、就農に必要な技術や知識を習得するために必要な研修内容項目が総合的かつ体系的に設定されていること。
 - (3) 農業経営体（派遣研修先である場合を含む。）で研修を受ける場合にあつては、当該農業経営体が研修を実施する上で必要な講師や指導者を備え、必要な施設・機械等を備えているほか、研修先としてふさわしい要件と信用を備えた機関であること。
 - (4) 国内での最長2年間の研修後に最長1年の海外研修を行う場合にあつては、以下の要件を満たすこと。
 - ア 就農後5年以内に実現する農業経営の内容が明確であること。
 - イ アの農業経営の内容と海外研修の関連性・必要性が明確であること。

- 3 常勤（週 35 時間以上で継続的に労働するものをいう。）の雇用契約を締結していないこと。
- 4 原則として、生活費の確保を目的とした国の他の事業による給付等を受けていないこと。また、過去において、本事業と類似する資金（青年就農給付金、農業次世代人材投資事業（準備型）交付金、就職氷河期世代の新規就農促進事業交付金、新規就農促進研修支援事業交付金）の交付を受けていないこと。
- 5 研修終了後に親元就農（親族が経営する農業経営体に就農することをいう。）する予定の場合にあつては、就農に当たって家族経営協定等により交付対象者の責任及び役割（農業に専従することや経営主からの専従者給与が支払われること等）を明確にすること並びに就農後 5 年以内に当該農業経営を継承する、又は当該農業経営が法人化されている場合は当該法人の経営者（親族との共同経営者になる場合を含む。）となる、又は独立・自営就農（新規就農者育成総合対策別記 2 第5の2の（1）のイに定める要件を満たすものに限る）することを確約すること。
- 6 研修終了後に独立・自営就農する予定の場合にあつては、就農後（5の親元就農後 5 年以内に独立・自営就農する場合にあつては、経営開始後）5 年以内に農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号。）第12条第 1 項に規定する農業経営改善計画又は第14条の 4 第1項に規定する青年等就農計画の認定を受けること。
- 7 研修計画の承認申請時において、前年の世帯（本人のほか、同居又は生計を一にする別居の配偶者、子及び父母が該当する。）全体の所得が 600 万円以下であること。ただし、600 万円を超える場合であっても、生活費の確保の観点から支援対象とすべき切実な事情（※ 研修期間中に生じる無収入状態だけの理由では、切実な事情とまでは言えません。）があると認められる場合はこの限りではないこと。
- 8 研修中の事故による怪我等に備えて、交付期間が開始するまでに、又は研修計画の承認申請前に研修を開始している者は承認申請までに傷害保険に加入していること。

第 4 研修計画等の審査

提出された申請書類（研修計画）は、当該事業の担当部課において内容の確認を行った後、公益財団法人栃木県農業振興公社新規就農者育成総合対策補助金【就農準備資金】審査会運営要領、及び新規就農者育成総合対策のうち就農準備資金の交付対象者の考え方について」（令和 4 年 3 月 2 9 日付け 3 経営第 3216 号農林水産省経営局就農・女性課長通知）に基づいて審査会を開催し、研修計画内容の審査をします。

また、審査会では、原則として申請者等の面談を行いますので、予め御了承ください。

審査会実施予定日

審査会 令和 4 (2022) 年 1 2 月 2 0 日 (火)

※但し、審査会実施日は予定であり、変更になることがあります。そのため、

日程等については、申請者に後日ご連絡します。

第5 申請書類提出期間

申請書類は、下記の提出期間内に、第7に掲げる提出先へ提出してください。

令和4(2022)年11月25日(金)の午後5時まで(必着)

第6 申請方法等

1 申請書類

当該事業に応募しようとする者は、研修計画(別紙様式第1号)に次に掲げる別添1から14までの書類のうち該当するものを添付の上、第7の申請書類の提出先に正副各1部ずつを提出してください。(なお、副本については、正本のコピーを以て可とします。)

別添1：市町等研修機関等で研修を受ける場合は、受講する研修のカリキュラム(研修スケジュール、研修内容、習得する技術等)が分かる研修実施計画)を添付。公的研修機関で研修を受ける場合は、受講する研修のカリキュラム及び受講が認められていることを証する書類(学生証、受講決定通知書等)を添付。

別添2：研修実施計画(派遣研修)(派遣研修を実施する場合)

別添3：連帯保証人の印鑑証明書(連帯保証人2名分)

別添4：自署した資金返還要件及び連帯保証人内容確認書(連帯保証人2名分)

別添5：個人情報取り扱い

別添6：履歴書

別添7：離職票の原本(離職票の提示が可能な場合)又は雇用保険受給資格者証

別添8：農業研修に関する確認書(市町等研修機関等で研修を受ける場合。公的研修機関で研修を受ける場合は不要。)

別添9：確約書(研修終了後、親元就農する予定の場合)

別添10：身分を証明する書類(運転免許証、パスポート等の写し)

別添11：健康保険証の写し

別添12：既に傷害保険に加入している場合は傷害保険証書の写しを添付。交付開始までに加入予定の場合は、加入を検討している傷害保険の内容が分かるもの(パンフレット等)を添付し、加入後に傷害保険証書の写しを提出すること。

別添13：前年の世帯全員及び連帯保証人の所得を証明する書類(源泉徴収票、所得証明書等)。前年の世帯全体の所得が600万円を超える場合は、必要に応じて生活費の確保の観点から資金を必要とする理由欄に記載した切実な事情の裏付けとなる書類を添付。

別添14：就農後5年間の収支計画(独立・自営就農する予定の場合)

2 申請書類提出に当たっての留意事項

(1) 新規就農者育成総合対策補助金【就農準備資金】取扱要領について

- ① 当該事業に関しましては、公益財団法人栃木県農業振興公社 新規就農者育成総合対策補助金【就農準備資金】取扱要領（令和4年6月30日制定。以下「取扱要領」という。）に定め、公益財団法人栃木県農業振興公社のホームページ（URL：<http://www.tochigi-agri.or.jp/>）に掲載しています。
- ② 申請に必要な研修計画の様式（別紙様式第1号）についても、当該ホームページ（取扱要領様式①及び様式②）に掲載しています。
- ※ なお、掲載しています様式は、取扱要領に係る全ての様式を掲載していますので、該当する箇所をダウンロードしてご利用ください。
- (2) 申請書類に不備がある場合は、審査の対象となりませんのでご注意ください。申請書類を準備するにあたっては、「取扱要領」を十分にご理解の上、必要に応じ申請書類の提出先である農業振興事務所や栃木県農業大学校に相談し、助言・指導を受けるなどして、様式に沿って正確に記載してください。
- (3) 申請書類は、第7の申請書類の提出先へ持参又は郵送等の方法により提出してください。
- (4) 申請書類を郵送等により提出する場合には、簡易書留等、配達されたことが証明できる方法により確実に送達してください。
- (5) 提出後の申請書類は、原則として、資料の追加や差し替えは認めませんのでご注意ください。また、申請書類は承認の有無にかかわらず返却いたしませんので御了承ください。
- (6) 今回初めて申請する者で、令和4（2022）年4月から令和5（2023）年3月までの1年間又は概ね1年間の研修を受けている場合は、資金交付の対象となる研修期間は10月1日からとなります。

第7 申請書類の提出先

- 1 就農希望地が県内にある場合の提出先
 - (1) 研修先が栃木県農業大学校である場合は、栃木県農業大学校
 - (2) 研修先が(1)以外の研修機関である場合は、就農希望地を管轄する農業振興事務所
- 2 就農希望地が県外にある場合
まずは、お近くの農業振興事務所にご相談ください。（申請手続きは、就農希望地のある各都道府県において行うのが原則であるため。）
- 3 提出先の名称、所在、連絡先（管轄する市町等）

河内農業振興事務所

（宇都宮市、上三川町）

〒321-0974 宇都宮市竹林町 1030-2 TEL 028-626-3059

上都賀農業振興事務所

(鹿沼市、日光市)

〒322-0068 鹿沼市今宮町 1664-1 TEL 0 2 8 9 - 6 2 - 5 2 3 6

芳賀農業振興事務所

(真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町)

〒321-4305 真岡市荒町 116-1 TEL 0 2 8 5 - 8 2 - 4 4 3 8

下都賀農業振興事務所

(栃木市、小山市、下野市、壬生町、野木町)

〒328-0032 栃木市神田町 5-20 TEL 0 2 8 2 - 2 3 - 3 4 2 5

塩谷南那須農業振興事務所

(矢板市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那珂川町)

〒329-2163 矢板市鹿島町 20-22 TEL 0 2 8 7 - 4 3 - 1 2 5 1

那須農業振興事務所

(大田原市、那須塩原市、那須町)

〒324-0041 大田原市本町 1-3-1 TEL 0 2 8 7 - 2 3 - 3 1 4 1

安足農業振興事務所

(足利市、佐野市)

〒327-8503 佐野市堀米町 607 TEL 0 2 8 3 - 2 3 - 1 4 5 5

栃木県農業大学校 (栃木県農業大学校のみで研修を受ける場合)

〒321-3233 宇都宮市上籠谷町 1145-1 TEL 0 2 8 - 6 6 7 - 0 7 1 1

第8 個人情報等の取扱い

提出された申請書類については、関係法令を遵守の上保管し、審査、審査結果の通知、交付金の交付及び交付データの管理以外の目的には、一切使用いたしません。

(但し、事業の執行上、国や市町等へは情報提供することがありますので予め御承知置きください。)

第9 問い合わせ先

当該資金に関するお問い合わせは、第7の申請書類の提出先又は下記の担当機関にお願いします。

【担当機関】

栃木県 農政部経営技術課 担い手育成担当

〒321-8501 宇都宮市塙田 1-1-20 TEL 0 2 8 - 6 2 3 - 2 3 1 7

公益財団法人栃木県農業振興公社 農政推進部 就農育成担当

〒320-0047 宇都宮市一の沢 2-2-13 TEL 0 2 8 - 6 4 8 - 9 5 1 5